



## 共につくっていく、ゲル地区の未来

沖縄尚学高等学校附属中学校 3年 島田 葉子

どこまでも広がる青空、緑の山々、そして広い大地は、想像していた通りのモンゴルだった。しかし、私が知らなかった一面があった。ゲル地区のことだ。

モンゴルでは環境の変化によって遊牧だけで生活することが困難になり、都市に働きに出る遊牧民の方が増えているそうだ。その遊牧民などが集まる地域がゲル地区と呼ばれる場所だ。

郊外に向かう際に、バスの窓からゲル地区の様子が見えた。町の中心部で見られた高層ビルや大きな建物はなく、代わりに古びた家や、白いゲルが密集していた。市の人口の約60%が暮らすゲル地区では、インフラの整備がまだ不十分なのだと聞いた。街中での豊かな生活との差が衝撃的だった。

中心部とゲル地区の格差を改善するにはどうすればいいのか。資金援助だけでは、環境変化や遊牧民の伝統的な生活が失われていくのを止められないだろう。

そんな時に、現地で出会った青年海外協力隊の方のことを思い出した。病院で勤務されている方は、ゲルでの生活に合わせた治療を行っているとおっしゃっていた。また、別の方は、学校の生徒にアンケートを取りながら、教育の改善を試みているそうだ。このような小さな取り組みも含め、JICAの活動は確実に現状の改善につながっているのだと知った。日本のやり方をそのまま押し付けるのではなく、モンゴル文化を尊重して共に考える。それがゲル地区の問題の解決にもつながる第一歩なのかもしれない。